

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年8月9日
【四半期会計期間】	第79期第1四半期（自平成24年4月1日至平成24年6月30日）
【会社名】	協栄産業株式会社
【英訳名】	KYOEI SANGYO CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 水谷 廣 司
【本店の所在の場所】	東京都渋谷区松濤二丁目20番4号
【電話番号】	(03)3481-2111(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役専務執行役員 管理部門担当 板垣 政 昭
【最寄りの連絡場所】	東京都渋谷区松濤二丁目20番4号
【電話番号】	(03)3481-2111(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役専務執行役員 管理部門担当 板垣 政 昭
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 協栄産業株式会社 相模原事業所 (神奈川県相模原市中央区宮下一丁目2番6号) 協栄産業株式会社 大阪支店 (大阪府大阪市福島区福島三丁目14番24号 阪神ダイヤビルディング)

(注) 相模原事業所及び大阪支店は法定の縦覧場所ではありませんが、投資家の便宜のため縦覧に供しております。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第78期 第1四半期 連結累計期間	第79期 第1四半期 連結累計期間	第78期
会計期間	自平成23年4月1日 至平成23年6月30日	自平成24年4月1日 至平成24年6月30日	自平成23年4月1日 至平成24年3月31日
売上高 (千円)	14,280,913	14,647,839	62,845,425
経常損益(は損失) (千円)	314,772	167,807	230,337
四半期(当期)純損益 (は損失) (千円)	316,726	188,189	119,191
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	405,690	326,345	18,123
純資産額 (千円)	12,364,647	12,303,479	12,690,962
総資産額 (千円)	34,165,710	35,358,181	36,832,876
1株当たり四半期(当期)純 損益金額(は損失) (円)	10.38	6.17	3.91
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	36.2	34.8	34.5

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。

2. 売上高には、消費税等は含んでいません。

3. 第78期第1四半期連結累計期間及び第79期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため、第78期連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社及び当社の子会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。なお、関係会社の異動については、以下のとおりであります。

< 商事部門 >

販売子会社として、平成24年4月に、アメリカ合衆国ミシガン州にKYOEI ELECTRONICS AMERICA INC.を設立しましたが、事業開始前のため、非連結としております。

この結果、平成24年6月30日現在では、当社グループは、当社及び連結子会社6社、非連結子会社2社となりました。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、大震災の復興需要など内需が牽引し緩やかながらも回復を続けております。しかしながら欧州諸国の債務危機、中国や米国経済の減速懸念など、先行き不透明な状況で推移いたしました。当社グループの関連するエレクトロニクス業界では、円高の長期化、新興国の台頭等により事業変革を迫られております。

このような情勢の下で、当社グループが持つそれぞれの機能の融合と、グループ間及び部門間相互の連携により、顧客ニーズに対する速やかな対応や積極的な営業活動の推進を図るとともに、諸経費の削減など収益改善に努めてまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は146億4千7百万円、前年同期に比べて2.6%の増収、営業損失は1億2千6百万円（前年同期営業損失2億8千8百万円）、経常損失は1億6千7百万円（前年同期経常損失3億1千4百万円）、四半期純損失は1億8千8百万円（前年同期四半期純損失3億1千6百万円）という成績になりました。

セグメントの概況は次のとおりです。

(商事部門)

- ・売上高 115億3千7百万円（前年同期比2.2%減）
- ・営業利益 1億7百万円（前年同期比48.5%減）

商事部門においては、前年同期と比較いたしますと、一部で震災による供給不足の解消による売上の増加等はありませんでしたが、全般に受注環境は厳しい状況で推移いたしました。

そのような中、海外子会社は比較的堅調に推移いたしました。

事業別の詳細は以下のとおりです。

半導体デバイス事業

半導体分野では、自動車関連は震災の影響に対する反動増もあり前年同期比で好調となりました。白物家電関連は国内エアコン向けが好調となりましたが、中国、欧州市場向けが低調となりました。アミューズメント、産業機関連は低調となりました。

電子デバイス分野では、産業用向け表示デバイス、イメージセンサ等や、スマートフォン、車載向けの希土類磁石が順調に推移いたしました。その他の電子部品も堅調に推移いたしました。

電子材料事業

電子材料事業は、スマートフォン、車載関連向けは堅調に推移いたしました。薄型TV、パソコン向けコネクタや半導体リードフレーム等が低調となりました。

FAシステム事業

産業メカトロニクス分野では、放電加工機、レーザ加工機などの設備機械は第1四半期は商談の先送り等があり低調となりました。また、NC装置も主要ユーザーからの受注が伸び悩み低調に推移いたしました。

FA機器分野でも、エレクトロニクス関連の装置メーカーからの受注が伸び悩み低調となりました。

(IT部門)

- ・売上高 11億3百万円 (前年同期比22.3%増)
- ・営業損失 8千6百万円 (前年同期営業損失1億7千7百万円)

IT部門においては、低調であった前年同期と比較いたしますと、全般に受注が回復傾向で推移いたしました。なお、IT部門では、9月及び3月に売上及び利益の計上が集中する傾向にあります。これは従来からの業界傾向であります。

事業別の詳細は以下のとおりです。

ビジネスソリューション事業

建設業関連システムは、大手ユーザーからの受注により好調に推移いたしました。エンドユーザー向けシステム開発は主要顧客の開発が前期で一段落したことにより低調となりました。受託ソフト開発は、電力関連向けが大震災の影響で開発規模は縮小しておりますが、前年同期と比較して、受注は上向きで推移いたしました。

エンベデッドシステム事業

エンベデッドシステム系は、カーナビ開発の受注が順調に推移いたしました。また、専用装置システム開発や通信制御装置の販売は、低調であった前期からは回復傾向で推移いたしました。

監視制御システム系は、主要顧客の内製化等の影響で苦戦いたしました。

IC設計事業

IC設計事業は、当社の得意とするアナログ技術をベースに新規顧客の開拓と新規分野への進出を図りましたが、業界を取り巻く環境は厳しく、安定した受注を確保するに至りませんでした。

(製造部門)

- ・売上高 20億1千2百万円 (前年同期比26.5%増)
- ・営業利益 1億3千7百万円 (前年同期営業損失6百万円)

製造部門においては、前第4四半期に続き、受注は好調に推移いたしました。特に子会社の福島協栄株式会社が好調となり損益の改善に大きく貢献いたしました。

プリント配線板事業

相模原工場においては、車載向けメタルコア基板が震災の影響に対する反動増もあり前年同期と比べ受注が大きく伸張しました。またモジュール基板の受注も精密機器やOA機器向けに伸張いたしました。

福島協栄株式会社においてもアマミューズメント向け及び車載向けを中心に受注が好調に推移し、特に前年同期と比較すると大きく伸張いたしました。

両工場の受注が好調に推移したことにより、損益は大きく改善されました。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて14億7千4百万円減少し、353億5千8百万円となりました。

- ・流動資産は、現金及び預金4億7百万円の減少、受取手形及び売掛金6億3千1百万円の減少、商品及び製品4億3千5百万円の減少等により、15億8千1百万円減少し、294億2千7百万円となりました。
 - ・固定資産は、繰延税金資産2億1千4百万円の増加等により、1億6百万円増加し、59億3千万円となりました。
 - ・流動負債は、支払手形及び買掛金4億6千6百万円の減少、賞与引当金1億2千6百万円の減少等により、7億8千3百万円減少し、200億1千6百万円となりました。
 - ・固定負債は、長期借入金2億5千万円の減少等により、3億3百万円減少し、30億3千8百万円となりました。
- この結果、純資産は、3億8千7百万円減少し、123億3百万円となり、自己資本比率は前連結会計年度末の34.5%から0.3ポイント増加し、34.8%となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当社グループにおける当第1四半期連結累計期間の研究開発費の総額は、12,491千円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 生産、受注及び販売の実績

当第1四半期連結累計期間において、製造部門の生産及び受注実績が著しく増加しております。

これはアミューズメント向け及び車載向けを中心に好調に推移したためで、生産高が21億4千2百万円（前年同期比35.3%増）、受注高が21億5千8百万円（前年同期比21.9%増）となっております。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	100,000,000
計	100,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成24年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成24年8月9日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	31,935,458	31,935,458	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 1,000株
計	31,935,458	31,935,458	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成24年4月1日～ 平成24年6月30日	-	31,935,458	-	3,161,819	-	3,065,210

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成24年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,421,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 30,271,000	30,271	-
単元未満株式	普通株式 243,458	-	-
発行済株式総数	31,935,458	-	-
総株主の議決権	-	30,271	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が5,000株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数5個が含まれております。

【自己株式等】

平成24年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
協栄産業株式会社	東京都渋谷区松濤 2-20-4	1,421,000	-	1,421,000	4.45
計	-	1,421,000	-	1,421,000	4.45

(注) 当第1四半期会計期間末(平成24年6月30日)の自己株式数は1,421,808株(発行済株式総数に対する所有株式数の割合4.45%)となっております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、監査法人保森会計事務所による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,855,086	5,447,947
受取手形及び売掛金	17,611,431	16,980,114
電子記録債権	79,167	117,653
商品及び製品	5,763,914	5,328,043
仕掛品	768,643	858,310
原材料及び貯蔵品	170,453	168,034
繰延税金資産	551,846	407,286
その他	220,691	132,845
貸倒引当金	12,915	13,033
流動資産合計	31,008,319	29,427,202
固定資産		
有形固定資産	2,647,692	2,592,169
無形固定資産	233,541	225,918
投資その他の資産		
投資有価証券	1,902,826	1,847,920
繰延税金資産	79,063	293,557
その他	1,074,065	1,084,045
貸倒引当金	112,632	112,632
投資その他の資産合計	2,943,322	3,112,890
固定資産合計	5,824,556	5,930,978
資産合計	36,832,876	35,358,181
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,875,068	12,408,129
短期借入金	2,888,672	2,866,315
1年内返済予定の長期借入金	3,370,000	3,265,000
未払法人税等	77,440	26,642
賞与引当金	258,796	132,565
工事損失引当金	117	1,130
その他	1,329,813	1,316,837
流動負債合計	20,799,909	20,016,620
固定負債		
長期借入金	2,000,000	1,750,000
繰延税金負債	338	326
退職給付引当金	654,160	630,525
役員退職慰労引当金	204,750	209,000
その他	482,755	448,228
固定負債合計	3,342,003	3,038,081
負債合計	24,141,913	23,054,701

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,161,819	3,161,819
資本剰余金	3,120,470	3,120,349
利益剰余金	6,908,983	6,659,765
自己株式	416,477	416,465
株主資本合計	12,774,795	12,525,468
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	304,590	187,524
為替換算調整勘定	388,423	409,513
その他の包括利益累計額合計	83,832	221,988
純資産合計	12,690,962	12,303,479
負債純資産合計	36,832,876	35,358,181

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
売上高	14,280,913	14,647,839
売上原価	12,962,452	13,197,929
売上総利益	1,318,461	1,449,910
販売費及び一般管理費	1,607,371	1,575,934
営業損失()	288,910	126,024
営業外収益		
受取利息	391	400
受取配当金	22,646	19,236
その他	12,279	9,947
営業外収益合計	35,317	29,584
営業外費用		
支払利息	40,226	39,922
為替差損	3,495	12,109
債権売却損	6,850	7,854
その他	10,607	11,481
営業外費用合計	61,179	71,367
経常損失()	314,772	167,807
特別利益		
固定資産売却益	1,131	-
特別利益合計	1,131	-
特別損失		
固定資産除却損	273	30
特別損失合計	273	30
税金等調整前四半期純損失()	313,914	167,837
法人税、住民税及び事業税	14,411	25,458
法人税等調整額	11,599	5,106
法人税等合計	2,811	20,351
少数株主損益調整前四半期純損失()	316,726	188,189
四半期純損失()	316,726	188,189

【四半期連結包括利益計算書】
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失()	316,726	188,189
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	50,875	117,066
繰延ヘッジ損益	16,417	-
為替換算調整勘定	21,671	21,089
その他の包括利益合計	88,964	138,156
四半期包括利益	405,690	326,345
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	405,690	326,345

【会計方針の変更等】

(会計上の見積りの変更と区分することが困難な会計方針の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第 1 四半期連結会計期間より、平成24年 4 月 1 日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これによる当第 1 四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。当四半期連結会計期間末日満期手形の金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年 3月31日)	当第 1 四半期連結会計期間 (平成24年 6月30日)
受取手形	293,319千円	232,993千円
支払手形 (設備関係支払手形を含む)	266,841	189,589

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第 1 四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第 1 四半期連結累計期間に係る減価償却費 (のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。) は、次のとおりであります。

	前第 1 四半期連結累計期間 (自平成23年 4月 1日 至平成23年 6月30日)	当第 1 四半期連結累計期間 (自平成24年 4月 1日 至平成24年 6月30日)
減価償却費	112,008千円	93,484千円

(株主資本等関係)

前第 1 四半期連結累計期間 (自平成23年 4月 1日 至平成23年 6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年 5月11日 取締役会	普通株式	61,032	2	平成23年 3月31日	平成23年 6月13日	利益剰余金

当第 1 四半期連結累計期間 (自平成24年 4月 1日 至平成24年 6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年 5月11日 取締役会	普通株式	61,028	2	平成24年 3月31日	平成24年 6月11日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			
	商事部門	IT部門	製造部門	合計
売上高				
(1) 外部顧客への売上高	11,798,750	891,428	1,590,734	14,280,913
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	2,412	11,589	981	14,983
計	11,801,163	903,017	1,591,715	14,295,896
セグメント利益又は損失()	208,492	177,910	6,123	24,457

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	24,457
全社費用(注)	313,367
四半期連結損益計算書の営業損失()	288,910

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務部門等管理部門に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			
	商事部門	IT部門	製造部門	合計
売上高				
(1) 外部顧客への売上高	11,535,327	1,100,020	2,012,490	14,647,839
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	2,213	3,930	255	6,399
計	11,537,540	1,103,950	2,012,746	14,654,238
セグメント利益又は損失()	107,431	86,845	137,233	157,819

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	157,819
全社費用(注)	283,843
四半期連結損益計算書の営業損失()	126,024

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務部門等管理部門に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
1株当たり四半期純損失金額	10円38銭	6円17銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額(千円)	316,726	188,189
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純損失金額(千円)	316,726	188,189
普通株式の期中平均株式数(千株)	30,516	30,513

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成24年5月11日開催の取締役会において、次のとおり剰余金の配当を行うことを決議いたしました。

(イ) 配当金の総額.....61,028千円

(ロ) 1株当たりの金額.....2円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....平成24年6月11日

(注) 平成24年3月31日現在の株主名簿に記載又は記録されている株主に対し、支払いを行っております。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年 8月 8日

協栄産業株式会社
取締役会 御中

監査法人 保森会計事務所

代表社員 公認会計士 横山 博 印
業務執行社員

代表社員 公認会計士 小山 貴久 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている協栄産業株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、協栄産業株式会社及び連結子会社の平成24年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれておりません。